

Diversity(多様性)Equity(公平性)Inclusion(包摂性)
多様な人たちが互いを認め合うとともに、それぞれの持ち味を發揮して生き生きと活躍し、皆が温かく包み込まれる社会をめざして



どんな手順で何を評価しているの？
～学校の学習評価のあらまし～

- 1.各教科には「子供たちに身に付けてほしい能力」が目標として設定されています。
 - 2.身に付けてほしい能力(=育成すべき資質・能力)は、次の3つの柱で整理されています。
 - ①知識及び技能(何を知っているか、何ができるか)
 - ②思考力・判断力・表現力等(知っていること・できることをどう使うか)
 - ③学びに向かう力・人間性等(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
 - 3.各学校では、これらの力を身に付けさせるために工夫を凝らして授業を行っています。
 - 4.授業者は、その力がどのくらい身に付いているか、どのように深まっているかなどを把握し、ひとりひとりの状況に応じて、アドバイス、補充指導、一層伸ばす指導等を行っています。
 - 5.力を把握(=評価)する資料には、定期テストや単元テストだけでなく、小テストや授業での活動の様子、練習問題の出来具合、レポートや作品、発表内容、班での話し合いの内容等があり、できるだけ多くの機会に、客観的な資料を収集しています。
 - 6.評価の際には、3つの窓口から子供たちを把握します。この窓口を「評価の観点」と呼んでいます。
 - 7.評価の観点は、次の3つです。
 - ①知識・技能
理解したか、できるようになったか
 - ②思考・判断・表現
課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が身に付いているか
 - ③主体的に学習に取り組む態度
身に付けてほしい能力③のうち「学びに向かう力」の部分で、粘り強く取り組んでいるか、自分の学習を調整できているか
 - 8.通知表では、観点ごとに「十分満足できる」「満足できる」「努力を要する」の3段階でお知らせします。
 - 9.5段階(小学校では3段階)の評定は、観点別の評価を基にして、総合的な学習状況を数字で表したものです。
- ※学習評価を行う際には、他者と比較することはありません。あらかじめ設定した姿にどのくらい近づいているかを評価します。
- ※現在、「自信をもたせる学習評価」プロジェクトチームでは、学校間で1～9の手順や基準等に大きな差が出ないように研究を進めています。



改訂学習指導要領について知りたい
(文部科学省 HP から)

何ができるようになるの？



そのために「何を学ばか」だけではなく…

どのように学ぶの？



主体的・対話的で、
深い学びへ

- ①は、知識を丸暗記しているかではなく、関連を説明できるなど深い理解を伴った知識・技能であるかを評価します。
 - ②は、知識・技能をうまく活用したり探究したりする中で、資料などが適切かどうかを判断し、そこから自分はどんなことを考えたのかを他者に発信する力などを評価します。
 - ③は、学習目標の達成に向けて粘り強い取組を行おうとする側面と、自分の学習を調整しようとする側面から評価します。この2つの側面から見える姿は、実際の教科等の学びの中では別々でなく、相互に関わり合いながら現れています。
- また、①②の状況を踏まえて評価し、①②に結び付いていない場合は、担任がアドバイス等を行います。したがって、①②と切り離し、単にノートを提出したかだけで評価することは適切とはいえません。

学習評価の観点③「主体的に学習に取り組む態度」で評価する「**学びに向かう力**」は、学校だけではなく家庭でも伸ばすことができます。



令和4年7月8日号
大村市教育委員会

家庭でも「学びに向かう力」を伸ばしましょう

学校では、次のような姿を見取り、伸ばそうとしています。

粘り強い取組を行おうとする側面

授業の目標である「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」などを身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行う姿

例えば…

- 初めは解けなかった問題に、異なる方法をいろいろと当てはめながら、あきらめずに、解決できるように工夫して取り組む。
- 自分とは異なる友達の考えや意見をよく聞いて、より良い考えや解決策を作り出したり発見したりしようとする。
- 実験に失敗したり、競技に負けたりしても、手順や工夫をよく考えて作戦を練り直し、うまくいくように工夫を積み重ねる。
- 自分の書いた文章や図を自己評価しながら書き直したり書き加えたりして、レポートや新聞を分かりやすく仕上げようとする。

【図画工作の例】作品づくり

うまくいかないところを見直して材料や道具を変更したり、より良いものを目指して作り直したりする姿



自らの学習を調整しようとする側面

粘り強い取組を行う中で、自分の学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤する姿

例えば…

- 疑問や課題を解決する見通しを立てたり、学習を進める中で必要に応じて解決方法を修正したりする。
- 友達と協働して、正解やより良い考え方、より良い解決方法を見つけようとする。
- 学習の中での判断や導いた結果が妥当かどうかを吟味したり、自分の学習の足跡(記録)を振り返ったりする。
- 課題を解決した後に、新たな課題を発見したり、更に問い続けたりする。



【体育の例】鉄棒の授業

きょうは何がうまくできて何ができなかったのか、補助器具なしではどうすればよいかなどを考え、次の練習に生かす姿

学校では、授業で各教科の内容を学ばせながら、子供たちに「**学び方(学ぶ方法)**」を身に付けさせています。

私たち大人もそうですが、社会に出てから「何かを学ぼう」「問題を解決しよう」とする際には、知らず知らずのうちに学校で身に付けた「学び方」を基に対処していることが多いものです。

子供たちが、家庭で学習する際にも、同様に学校での学び方を再現し、時には繰り返すことで強化し、時には未知の課題解決に適用して自分のやり方にアレンジしています。

小学校の算数は教えられるけど、中学校になると難しく教えてやれないんですね～。



中学校の三者面談でよくお聞きする保護者の方のお気持ちです。

学習内容を教えるのは学校にお任せください。家庭では、できれば勉強しているお子さんのそばにいて、「きょう学校で何を勉強したの？」と質問し、お子さんに説明させてみて、その説明に対して「そうなんだ」「なるほどね」「面白いね」などと返すことが、お子さんの「**学びに向かう力**」をはぐくみます。

学校で学んだことや身に付けたことを、お子さんが家庭学習や日常生活に生かしている姿があるはずです。それを見つけ、「がんばってるね」「できたね」などの「**認める**」言葉をかけ、励ましましょう！また、お子さんから教わることも多いのかもしれない。